CAAS ユニット企画／大学院国際日本学研究院

イリス・ハウカンプ特別招へい講師夏季集中講義（C 日程：7/24-28）内開催

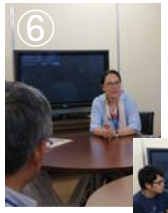
「映画のまち調布」を歩く （7 月 26 日）

当日はあいにくの雨模様でしたが、厳しい暑さに比べればよかった、という前向きな声が。調布市役所のお二人も参加してくれました。

多摩川の歴史を、古地図を使って説明。また、京王多摩川駅の由来や、昭和 2 年開業の多摩川原遊園京王閣がいかに最先端の遊園地であったかなどを聞く。当時の面影が多少残る駅前から大映撮影所跡地へと足を延ばす。

（ガイド）
旧日活・大映村の会事務局長
宮嶋眞雄さん

高津へ到着。芸能美術文庫見学後、広い倉庫内を案内してもらう。ありとあらゆる小道具が幅広い年代で揃えてあり、貸出先を垣間見れば今も時めくドラマの題名がずらり。まさに、日本唯一にして最大の小道具レンタル「高津」ここにあり。



今日のまとめを話すイリス先生。各自一言感想を述べて和やかに解散。

コース

①京王多摩川駅　→

②大映東京撮影所跡地　→

③旧日活・大映村の跡地（①から③まで徒歩）→

④角川大映スタジオ (11 時頃；大魔神前で記念写真・ショップマジンに立ち寄り）　→

⑤日活撮影所（12 時半頃；食堂で昼食後スタジオ見学）→徒歩で国領へ移動→

⑥高津（15 時頃；小道具類見学）→

⑦国領駅解散

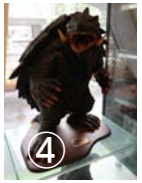
日活スタジオにて

食堂の壁に飾ってある手形。（上：鈴木清順　左下：小沢昭一　右下：吉永小百合）

食堂でお昼を食べ、いよいよスタジオへ。当日、円谷プロのご厚意で、なんと特撮撮影現場が見学できることに！最新の装置を使ってアナログな怪獣特撮をするという円谷プロならではの醍醐味に触れることができて、大感激。（残念ながら写真はありません）

大魔神と記念撮影

空飛ぶイカ？



角川大映スタジオのショップマジンにて一休憩。宮嶋さんによる「大映」の歴史に熱心に耳を傾ける参加者。店内には売り物のほかに、ガメラなどの置物や、往年のスターのスチールなどがあった。（私は手塚プロと琳派のコラボ作品をゲット。）

残念ながら、大映撮影所及び日活大映村の跡地で当時を思い出させるような建築物などは現存せず、今では宮嶋さんのように往時を知る人の話を聞いて想像するしかない。撮影所内に設置されていた石碑が唯一の現存物と言える。公園内に調布市が立てた碑がある。

photo by Zoria

日本映画俳優協会による石碑。会長は池部良。建立時にはまだ若かったのか、石原裕次郎や美空ひばりらの名前は側面に刻まれていた。

撮影所跡地の中で現在唯一、公的な場所として入れるのがこの公園

更に歩く。思った以上に坂の町。昔はこの辺りを第一堤防と称し、「はけ」（武蔵野の方言で崖のこと）の上とか下とかと呼んだそう。

日活大映村のかつての入り口付近

日活大映村内にあった植木養生場所跡地が今は児童遊園に。